

## 仏様のおはなし新シリーズ第47集その2 「携帯や節度を欠く若者」

西日本新聞の「こだま」欄で「携帯や節度欠く若者」という投書が紹介されていました。「私はペースメーカーを入れて一年半になる。街中はスマートフォンや携帯電話を扱っている若者たちでいっぱいである。バスや電車の優先席も例外ではない。車内で「優先席では電源を切ってください」と放送があっても、切るどころか無視して夢中になっている。こうした若者たちは白杖を持った人がいても、高齢者がいても席を代わろうとしない。電車では車掌も見えて見ぬふり。優先席で携帯電話を使っても注意はしない。放送はマニュアルにあるから流しているだけなのかと、思いたくなる。バスでも他の席が空いていても高校生がさつと「優先席」に座ると述べられています。」

ここでは、単にマナーの悪い高校生や若者について述べてあるように思われるかもしれませんが、それだけではないのです。この方が心臓にペースメーカーをいれられていることが大問題で、もし携帯電話の電波が原因でペースメーカーに異常が起こつたら、この方の命が危険にさらされる事になるのです。病院でもあたりまえのように携帯電話で話をしていく人を見かけます。同じことが言えます。

電車やバスには大勢の人が乗り合わせています。車内には、精神的な病気を抱えている人や肉体的障害のある人もおられるのです。自分たちがどれだけ周りの人たちに迷惑をかけているかきづいていないのです。

「優先席」の優先順位は障害者に高齢者に妊産婦に幼児が優先されます。それを守らないのは、大変傲慢なことです。

このような若者も仏法に出遇うことによつて、自ら愚かさにきづかされて、申し訳ないという反省の気持ちが生まれ、恥かしことだと、解らせて頂きます。私たちの社会は若くて健康な人達だけが優先されるのではなく、弱者といわれる人たちも共に生きているのです。人の命に年齢は関係なく、ともに尊いものなのです。お互いが敬い遇う社会があたりまえになれば、「優先席」など、必要がなくなります。早くそうなることを願っています。

